長野美術専門学校

# 令和４年度事業報告書

学校法人クリエイティブＡ

# Ⅰ　法人の概要

## １　建学の精神

人間に生きる歓喜（よろこび）と希望をもたせ続けてきたのは音楽と美術の力である

## ２　理念体系

⑴　教育理念

創造性の育みを以って豊かな社会形成に資する

⑵　信条

クリエイティブこそ社会形成の要である

⑶　教育目的

創造性の育み

⑷　育成人間像

目的に対し自由な精神で立ち向かう主体性を持った人間

⑸　使命

学生への最良の通過点の提供

## ３　沿　革

1946.04　村田美術研究所を長野市に開設

1953　村田絵画研究所を併設

1964　長野市北石堂町にアトリエを新設　※ここまでが、個人立絵画教室

1970.10　長野県知事より私立村田美術学校認可※公認の各種学校

学校長に村田武次就任

設置学科　造形科　絵画コース（２年制）/デザインコース（２年制）

1976.04　専修学校文化教養専門課程認可※専修学校専門課程として認可を受ける

1978.04　長野市岡田町に校舎新築移転　長野市岡田町８１－９

1978.09　長野美術専門学校に名称変更

1981.09　造形科にレタリング・写植コース（１年制）を設置

1988.03　造形科レタリング・写植コース（１年制）を廃止

1991.12　創立 20 周年記念事業

1995.10　学校法人村田学園認可※個人立から法人立へ、公の学校としての位置付けを強くする

初代法人理事長に村田武次就任

1997.09　長野市中御所１丁目 10-10 に新校舎新築移転

1998.04　学科構成等変更

造形科へ建築デザインコース（２年制）を設置

研究科（１年制）設置

1999.03　別館「蔵」の増設

建築デザインコースは国家資格に係る学科であり、その設置条件を満たすための増設

2000.04　学校長に村田道子就任

2001.04　創立 30 周年記念事業

2002.03　学科構成等変更

造形科建築デザインコース（２年制）を廃止、

造形科デザインコース（２年制)、絵画コース（２年制）を統合し、造形科（２年制）とする。

2004.04　学校長に村田陽就任

2004.04　学科構成等変更

研究科（１年制）を２年制に変更

造形科をビジュアルデザインコース（２年制)、ビジュアルデザイン特修コース（２年制）に分ける。京都造形芸術大学通信教育部の併修制度を開始（特修コース)

※特修コースは主に進学を考える学生のためのコースとして設置された。

2005.10　法人理事長に村田陽就任

2005.10　学校長に小林勝彦就任

2007.04　学科構成等変更

造形科　ビジュアルデザインコース（２年制）及びビジュアルデザイン特修コース（２年制）2 年次に映像授業開設

2007.04　学科構成等変更

造形科　アート・コミュニケーション科（１年制）開設

2007.07　法人理事長に小林勝彦就任

2009.04　学科構成等変更

造形科　ビジュアルデザインコース（２年制）及びビジュアルデザイン特修コース（２年制）に Web デザイン専攻・映像デザイン専攻を新設

アート・コミュニケーション科に 2 年制コースを設置したため、アート・コミュニケーション科１年制コース・２年制コースとする

2010.04　学科構成等変更

造形科　ビジュアルデザインコース（２年制）とビジュアルデザイン特修コース（２年制）を統合し、ビジュアルデザイン科（２年制）とする

2013.04　全学科単位制へ移行

美専修学ラインの設定

デザインライン／ドローイングライン／アートライン／映像ライン

2014.03　ビジュアルデザイン科２年制　職業実践専門課程認定

実践的な職業教育を高い質で確保している学校として「職業実践専門課程」法制化初年度に認定される

2015.04　学科構成等変更

ビジュアルデザイン科３年制を開設

ビジュアルデザイン科はビジュアルデザイン科２年制に名称変更

2016.04　法人名称変更

「学校法人村田学園」を「学校法人 クリエイティブ A」に変更

ＣＩ（キャンパスアイデンティティ）の確立へ

学科名称変更

アート・コミュニケーション科１年制をビジュアルアート科１年制に変更

アート・コミュニケーション科２年制をビジュアルアート科２年制に変更

2016.04　学科構成等変更

美専修学ラインの充実を図る

アニメキャラクターライン（新設）／デザインライン／イラストレーションライン（ライン名変更）／ファインアートライン（ライン名変更）／映像ライン

2016.12　新キャンパス建設着工

2017.08　新キャンパス竣工

2019.04　研究科をプロジェクトデザイン工科へ名称変更

2019.07　サテライトキャンパス設置　長野県長野市中御所　　森ビル新館１F

2020.03　ビジュアルデザイン科３年制　職業実践専門課程認定

2020.03　ビジュアルアート科１年制廃止

2020.04　美専修学ラインに「WEB メディアライン」を新設

2021.03　プロジェクトデザイン工科廃止

2021.04　com.デザイン総合学科設置

2021.04　履修証明プログラム「実践的デザイン基礎コース」設置

2022.04　履修証明プログラム「実践的デザイン応用コース」設置

2023.02　キャリア形成促進プログラム（令和５年度開始）認定

## ４　設置する学校

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学校名 | 長野美術専門学校 | | | |
| 設置者 | 学校法人クリエイティブＡ | | | |
| 郵便番号 | 380-0935 | 所在地 | 長野県長野市中御所１丁目１０番１０号 | |
| 電話番号 | 026-227-3229 | | ＦＡＸ番号 | 026-227-3235 |

## ５　設置する課程・学科・修業年限

| 課程 | 学　科<br>（単位制） | 修業年限 | 卒業に必要な単位数及び時間数 | | 称号 |
|---|---|---|---|---|---|
| 文化教養専門課程 | com.デザイン総合学科 | ４年 | １２４ | 3400 | 高度専門士 |
| 文化教養専門課程<br>（職業実践専門課程） | ビジュアルデザイン科３年制 | ３年 | ９３ | 2550 | 専門士 |
| 文化教養専門課程<br>（職業実践専門課程） | ビジュアルデザイン科２年制 | ２年 | ６２ | 1700 | 専門士 |
| 文化教養専門課程 | ビジュアルアート科２年制 | ２年 | ６２ | 1700 | 専門士 |

## ６　学科等の入学定員、収容定員、入学者数、在籍者数

（単位：人）

| 課程 | 学科（単位制） | 定員 | 入学状況 | | | ４月開始時 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 入学定員 | 入学志願者数 | 入学者数 | |
| 文化教養専門課程 | com.デザイン総合学科 | 20 | 5 | 0 | 1 | 1 |
| 文化教養専門課程<br>（職業実践専門課程） | ビジュアルデザイン科３年制 | 30 | 10 | 11 | 6 | 16 |
| 文化教養専門課程<br>（職業実践専門課程） | ビジュアルデザイン科２年制 | 50 | 25 | 19 | 15 | 36 |
| 文化教養専門課程 | ビジュアルアート科２年制 | 30 | 15 | 17 | 21 | 36 |
| 合　計 | | 130 | 55 | 47 | 43 | 89 |

## ７　役員・評議員・教職員の概要

⑴　役員の概要

| 定数・人数・任期 | 区分 | 職名 | 氏名 | |
|---|---|---|---|---|
| 理事　定数６人<br>平成３１年４月１日～<br>令和５年３月３１日 | 第１号 | 理事長 | 小林　勝彦 | 長野美術専門学校校長 |
| | 第２号 | 理　事 | 松本　直樹 | 長野美術専門学校副校長 |
| | 第３号 | 理　事 | 松田　光平 | 市議会議員 |
| | 第３号 | 理　事 | 伊東　　工 | 映像制作会社代表 |
| | 第３号 | 理　事 | 増澤　珠美 | イベント運営団体代表 |
| | 第３号 | 理　事 | 岡田智津子 | デザイン制作会社代表 |
| 監事　定数２人<br>平成３１年４月１日～<br>令和５年３月３１日 | | 監　事 | 瀬下　良幸 | デザイン業自営 |
| | | 監　事 | 西澤　和博 | デザイン制作会社役員 |
| 評議員定数１３人<br>平成３１年４月１日～<br>令和５年３月３１日 | １３人 | | | |
| 顧問 | １人 | | | |

⑵　教職員の概要

| 職　名 | 本務・兼務の別 | 勤務体制 | 合計（人） |
|---|---|---|---|
| 校　長 | 本　務 | 常　勤 | 1 |
| 教　員 | 本　務 | 常　勤 | 6 |
| 教　員 | 兼　務 | 非常勤 | 23 |
| 連携企業派遣講師 | 兼　務 | 非常勤 | 4 |
| 職　員 | 本　務 | 常　勤 | 3 |

⑶　理事会・評議員会の開催状況

① 令和４年度理事会の開催状況は以下のとおりです

令和４年５月２８日　定例理事会

令和４年１月１４日　臨時理事会

令和５年３月２５日　定例理事会

② 令和４年度評議員会の開催状況は以下のとおりです。

令和４年５月２８日　定例評議員会

令和５年１月１４日　臨時評議員会

令和５年３月２５日　定例評議員会

## Ⅱ　事業の概要

### １　当該年度の事業の概要

社会に必要な「質」と「実」を実現するために、どのようなクリエイティブの教育事業を行っていけばよいかが、事業計画にあたっての課題である。そのための方針が修学の多様化だが、これは中長期の事業計画によるもので、以下が令和４年度の執行概要である。

当年度は、本校独自の教育課程システム「美専修学ライン」の６つのテクニカルラインに「マンガライン」を新たに設置し、計７つとして拡張した。さらにアート部門の学科充実を図るため、令和５年度より、ビジュアルアート科３年制学科設置に向け、授業科目等のカリキュラム編成を行った。又、上級学科として設置した「com.デザイン総合学科」の卒業時称号を「高度専門士」として申請し当年度から認められた。

広報においては、入学制度の改革を行い、従来の入試枠に指定校推薦を加えるなど、入学募集活動を促進している。又、広報企画の拠点として設置したサテライトキャンパスにおいては、本校が既に持つ、授業内容・社学連携活動・学生作品・卒業生の活躍等資産を、いかに広報できるかが重要であるとの意識の基に機能させていくことを目標に、ギャラリースペースにおいて、卒業生による企画展を数回行い、同窓会との結びつきを強化することができた。

リカレント教育においては、令和３年度に開設した履修証明プログラム「実践的デザイン基礎コース」に加え「実践的デザイン応用コース」を新たに設置。「実践的デザイン基礎コース」２名、「実践的デザイン応用コース」１名の修了生を輩出した。

又、当年度は、文科省「キャリア形成促進プログラム」制度、及び厚生労働省「特定一般教育訓練」制度の令和５年度からの認定を受けた。

### ２　主な事業の目的・計画・計画の進捗状況

#### ⑴　教育課程

①各学科の修業年限、卒業に必要な単位数及び時間数

※Ⅰ―５設置する課程・学科・修業年限　参照

②学科方針

| 課程 | 学科 | 学科方針 |
|---|---|---|
| 文化教養専門課程 | com.デザイン総合学科 | クリエイティブの本来性を探求し、多様な領域で活躍できる能力の獲得<br>これからの社会を幅広いデザインワークでリードする力をつける |
| 文化教養専門課程<br>（職業実践専門課程） | ビジュアルデザイン科<br>３年制 | 視覚情報のデザインによって、物事を新たに考案する能力の獲得<br>デザイン全般に関わる基礎力を確実なものにし、自身で切り拓く力をつける |

| | | |
|---|---|---|
| 文化教養専門課程<br>（職業実践専門課程） | ビジュアルデザイン科<br>２年制 | 視覚情報のデザインによって、物事を新たに考案する能力の獲得<br>デザイン全般に関わる基礎力を養い、社会の要請に正しく応える力をつける |
| 文化教養専門課程 | ビジュアルアート科２年制 | 幅広いアート表現によって、作品を造形する能力の獲得<br>制作や作品をとおし表現の可能性を広げ、社会へつなげる |

③教育課程の特色

本校の教育課程の特色として、クリエイティブ分野の専門性を将来につながる学びの〝ライン〟として設定している。これまでの「デザイン」「映像」「WEB メディア」「イラストレーション」「ファインアート」「アニメキャラクター」に加え、当年度新たに「マンガ」を設置し、教育課程の更なる拡充・高度化を前進させた。

尚、ビジュアルデザイン科には「デザイン」「映像」「イラストレーション」「WEB メディア」ラインが、ビジュアルアート科には「アニメキャラクター」「ファインアート」「マンガ」ラインの科目が、com.デザイン総合学科には、主に「デザイン」「映像」「イラストレーション」「WEB メディア」ラインが配当されているが、教養科目としてアート部門カリキュラムの履修ができるように柔軟性を高めた。

又、各〝ライン〟には、基礎を修得する「ベーシック」、オリジナリティを獲得する「パーソナル」、そして実践的な「プロフェッショナル」の３つのキャリアステージがそれぞれ設定されており、各ステージに応じて科目が構成されている。

修学期においては、年間の内４月～６月を「基礎履修期／さまざまな専門分野基礎的な科目を履修することができる」、7 月～10 月をゼミ期／それぞれの専門性に特化したライン別のゼミを展開」、１１月～３月を「総合制作期／年間の学びのまとめの期間、専門ラインごとの集大成となる制作に取り組み、年度末には総合制作展（美専展）で一般公開する」とし。総合制作を目指した学びの流れとしている。

本年度の教育課程運営は引き続き「新型コロナウイルス感染症」の影響により、危機管理委員会を頻繁に開き、教育課程運営の指針とした。予定していた連携授業や地域貢献への学生動員等断念せざるを得ないものもあったが、遠隔授業や校内の人数制限、教室使用後の消毒等感染予防対策等により新たな授業形態や教務運営の見直し等が進み、「zoom」等を使用した遠隔配信授業や複数教室をまたぐ分散型授業や、「Google クラスルーム」の活用による出欠管理や課題の出題提出管理等、新しい教育課程運営へと進化ができたものと受け止めている。

⑵　連携学習

当年度の協定を交して行った企業等との連携学習は下表のとおり。

| 科目名 | 学習内容・テーマ | 連携先企業・団体<br>※敬称略 | 形 態 | 実施期間 |
|---|---|---|---|---|
| キャリアデザインA | 会社見学･先輩へのインタビュー | 株式会社アドイシグロ<br>大日本法令印刷株式会社<br>株式会社エイブルデザイン<br>株式会社ながのアド・ビューロ | 企業内研修<br>コロナの影響で未協定 | 2022 年<br>11 月 |
| インターンシップA・B | 現場・実務の学び | クリエイティブファクト株式会社<br>株式会社りんごの木<br>日経印刷株式会社(2022<br>株式会社エキップ・アイ | 企業内研修<br>コロナの影響で未協定 | 2022 年<br>7 月～8 月<br>※ 各 社 毎 日数設定 |
| ムービーメイキング | 科目担当授業 | 有限会社アドフォート・トリム | 講師派遣 | 2022 年<br>4 月～6 月<br>9 月～11 月 |
| 6 次デザイン | 科目担当授業<br>JR 長野駅　駅キャラデザインプロジェクト | 長野県デザイン振興協会 | 講師派遣 | 2022 年<br>4 月～10 月 |
| | | 株式会社トドロキデザイン | 実習 | |
| | | JR 長野駅 | 実習 | |
| ブランドマネージメント | 科目担当授業 | 株式会社りんごの木 | 講師派遣 | 2022 年<br>4 月～7 月 |
| 映像表現 | 科目担当授業 | 株式会社ズズザウルス | 講師派遣 | 2022 年<br>5 月 |
| ライン別ゼミ<br>映像表現 | 人権啓発ポスターデザイン | 長野県県民文化部人権・男女共同参画課 | 講師派遣 | 2022 年<br>7 月～10 月 |
| | 人権学習（制作テーマ） | 長野県県民文化部人権・男女共同参画課 | 講師派遣 | 2022 年<br>7 月 |
| | 善光寺表参道イルミネーション／ノベルティグッズデザイン | 長野市<br>ナルゲン | 実習 | 2022 年<br>7 月～10 月 |
| | 山形村 郷土愛育成事業デザインワークショップ＆リーフレット等制作 | 山形村 | 実習 | 2022 年<br>7 月～10 月 |
| | ノベルティグッズデザイン | 長野県信用保証協会 | 実習 | 2022 年<br>7 月～10 月 |
| | 交通安全啓発ツールデザイン | 長野自動車学校 | 実習 | 2022 年<br>7 月～10 月 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 第五地区シンボルマークデザイン | 長野市第五地区住民自治協議会 | 実習 | 2022 年<br>7 月～10 月 |
| | 末広町まるごとおトク商品券広報ツール | 共同組合ナガノ駅前センター | 実習 | 2022 年<br>7 月～10 月 |
| | 連携授業における指針相談 | 長野県デザイン振興協会<br>株式会社トドロキデザイン | | 2022 年<br>7 月～10 月 |

### ⑶　各種検定

当年度設定した検定の実施結果は下表のとおり。

| 検定種 | ビジュアルデザイン科３年制 | | | ビジュアルデザイン科２年制 | | | ビジュアルアート科２年制 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 受験 | 合格認定 | 合格率 | 受験 | 合格認定 | 合格率 | 受験 | 合格認定 | 合格率 |
| レタリング検定３級 | 6 | 2 | 33.3% | 16 | 7 | 43.8% | 4 | 2 | 50.0% |
| レタリング検定２級 | 1 | 0 | 0.0% | | | | | | |
| 色彩士検定３級 | 6 | 5 | 83.3% | 12 | 6 | 50.0% | 18 | 12 | 66.7% |
| Illustrator クリエイター能力認定試験 | 6 | 6 | 100.0% | 13 | 13 | 100.0% | 5 | 4 | 80.0% |
| Photoshop クリエイター能力認定試験 | 7 | 5 | 71.4% | 13 | 10 | 76.9% | 5 | 2 | 40.0% |
| 日本語検定３級 | 5 | 4 | 80.0% | 14 | 9 | 64.3% | 15 | 12 | 80.0% |
| 美術検定４級 | 1 | 1 | 100.0% | 6 | 5 | 83.3% | 11 | 9 | 81.8% |
| ビジネス能力検定ジョブパス３級 | 8 | 8 | 100.0% | 16 | 15 | 93.8% | 14 | 11 | 78.6% |
| フォトマスター検定３級 | 3 | 3 | 100.0% | 2 | 1 | 50.0% | 4 | 3 | 75.0% |
| ブランドマネージャー資格検定３級 | 2 | 2 | 100.0% | 5 | 2 | 40.0% | | | |

### ⑷　クリエイティブプロジェクト

社会に向け創造性教育の必要性そのものを伝えるべく、専門課程の教育活動の枠を超え様々なクリエイティブ企画を推進している。

① クリエイティブフラッグプロジェクト

デザイン・アートは社会に大きな役割を担うことをアピールし、クリエイターの活躍の場を広げる。デザイン・アートの力により社会を彩るプロジェクト。

様々なビジュアルで彩ったフラッグを制作し、町を彩る。

本年度の主な使用は　年度内　長野美術専門学校敷地周辺（オープンキャンパス開催時）

② 美専展 2023

美専展は学生の総合制作を公開する授業目的のプロジェクトであるが、社会に向けた創造性教育の必要性を伝える目的により、当該年度の教育課程において企業等との連携活動による成果物の公開を学校側により行う。学生と学校との協働展となっている。

| | |
|---|---|
| 開催日時 | 令和５年２月 24 日（金）～　26 日（日）<br>10:00～18:00 ※初日開始 14:00。最終日 14:00 まで<br>内覧会：2 月 24 日（金）10:00～12:00 |
| 開催場所 | 北野カルチュラルセンター |
| 構成 | 学校：連携学習の成果報告<br>学生　77 名：総合制作作品の展示 |
| 会期中の来館者のべ人数 | 536 名　（24 日/101 名、25 日/234 名、26 日/201 名） |

○その他、令和５年度開設予定の「地域連携研究センター『ながの CreativeHUB』」設置検討会議を開催。

## ３　入学志願者数・受験者数・合格者数等の入学試験に関する状況

| 月 | 日 | 曜日 | 試験種別 |
|---|---|---|---|
| 7 | 30 | 土 | ＡＯ選考　学習体験１ |
| 8 | 27 | 土 | ＡＯ選考　学習体験１ |
| 10 | 22 | 土 | 指定校推薦 |
| 10 | 22 | 土 | 第１回自己推薦選考 |
| 11 | 12 | 土 | 第２回自己推薦選考 |
| 12 | 10 | 土 | 第３回自己推薦選考 |
| 1 | 21 | 土 | 第１回一般選考 |
| 2 | 18 | 土 | 第２回一般選考 |
| 3 | 11 | 月 | 第３回一般選考 |
| 4 | 4 | 火 | 第４回一般選考個別 |

選考結果　（単位：人）

| 学科 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 令和５年度入学者数 |
|---|---|---|---|---|
| com.デザイン総合学科 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| ビジュアルデザイン科３年制 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| ビジュアルデザイン科２年制 | 15 | 15 | 15 | 15 |
| ビジュアルアート科３年制 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| ビジュアルアート科２年制 | 17 | 17 | 17 | 17 |
| 合　計 | 40 | 40 | 40 | 40 |

## ４　卒業者数・修了者数・称号授与数等の状況

（単位：人）

| 課　程 | 学科名 | ４月開始時 | 休学 | 退学 | 卒業 | ３月末在籍者 | 転学科予定 | ４月開始時（予定） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 文化教養専門課程 | com.デザイン総合学科 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | −1 | 0 |
| 文化教養専門課程（職業実践専門課程） | ビジュアルデザイン科３年制 | 16 | 0 | 0 | 1 | 15 | | 15 |
| 文化教養専門課程（職業実践専門課程） | ビジュアルデザイ科２年制 | 36 | 1 | 2 | 18 | 16 | −1<br>+1 | 16 |
| 文化教養専門課程 | ビジュアルアート科２年制 | 36 | 0 | 4 | 13 | 19 | +2<br>−2 | 19 |
| 合計 | | 89 | 2 | 6 | 32 | 51 | +1※ | 51 |

※令和５年４月１日開設予定の「ビジュアルアート科３年制」学科への転学科希望者１名

| 特別な課程 | | 受講者数（人） | 修了者数（人） |
|---|---|---|---|
| 履修証明プログラム | 実践的デザイン基礎コース | 2 | 2 |
| | 実践的デザイン応用コース | 1 | 1 |

## ５　学生の就職・進学の状況

卒業生 32 名のうち、就職を希望した者は 23 名で、その内就職した者は 19 名であった。希望者に対しての就職率は 82.6％となった。

| 科 | 卒業者数（人） | 就職希望者数（人） | 内就職者数（率） | 進学希望者数（人） | 内進学数（人） |
|---|---|---|---|---|---|
| com.デザイン総合学科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ビジュアルデザイン科３年制 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ビジュアルデザイン科２年制 | 18 | 13 | 12(92.3%) | 0 | 0 |
| ビジュアルアート科２年制 | 13 | 10 | 7(70%) | 0 | 0 |
| 合　計 | 32 | 23 | 19(82.6%) | 0 | 0 |

## 6　基幹委員会運営

⑴ 自己点検・評価委員会

教職員・講師及び卒業生へのアンケートを実施し、その分析を踏まえ令和３年度においての自己点検評価を行った。

| 役職名 | 氏名 | 所属・役職 | 開催日 |
|---|---|---|---|
| 委員長 | 小　林　勝　彦 | 校　長 | 令和４年９月 22 日(木) |
| 委　員 | 松　本　直　樹 | 副校長 | |
| 委　員 | 小　林　理　砂 | 総務長 | |

⑵教育課程編成委員会

専攻分野に関する企業、関係施設、関係団体等との連携による専門分野の動向や必要となる知識・技術・技能について、本委員会にて把握・分析し、授業科目の設置や授業方法の改善策を策定することで、本校の専門課程における実践的な職業教育の教育課程の編成に反映させることを目的としている。

開催日　　第１回　令和４年 12 月７日
　　第２回　令和５年２月２日

| 役職名 | 氏名 | 選任区分<br>委員会規則第４条 | 所　属 |
|---|---|---|---|
| 委員長 | 小　林　勝　彦 | ４号 | 長野美術専門学校　学校長 |
| 委　員 | 辻　　圭　介 | １号 | 長野県デザイン振興協会　事務局長 |
| 委　員 | 安　達　浩　平 | ３号 | 株式会社ロジェインターナショナル |
| 委　員 | 宮　本　　圭 | ３号 | 株式会社 シーンデザイン建築設計事務所 |
| 委　員 | 寺　島　克　己 | ５号 | 長野美術専門学校　ライン主任代表 |
| 委　員 | 本　藤　佳代子 | ５号 | 長野美術専門学校<br>com.デザイン総合学科学科長 |
| 委　員 | 轟　　久　志 | ３号 | 株式会社トドロキデザイン<br>（ビジュアルデザイン科３年制学科学科長） |
| 委　員 | 相　澤　徳　行 | ５号 | 長野美術専門学校<br>ビジュアルデザイン科２年制学科学科長 |
| 委　員 | 鴨　林　朱　実 | ５号 | 長野美術専門学校<br>ビジュアルアート科２年制学科学科長 |
| 委　員 | 塚　田　佳　子 | ５号 | 長野美術専門学校　キャリア指導主事 |

⑶学校関係者評価委員会

本校と連携授業等で関係している企業や学識経験者、本校学生保護者、卒業生から選ばれた委員による学校関係者評価委員会を設置し、本校の自己点検・評価の結果が適切かどうか、またその結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか等の評価を行い、今後の学校運営改善のための参考としている。

開催日　令和４年 11 月 30 日

| 役職名 | 氏名 | 選任区分<br>委員会規則第４条 | 所　属 |
|---|---|---|---|
| 委員長 | 松　井　秀　夫 | １号 | ＮＰＯ法人夢のデザイン塾　副理事長 |
| 委　員 | 基　井　照　明 | ２号 | 株式会社日商印刷　専務取締役 |
| 委　員 | 松　本　政　憲 | ２号 | 富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社 |
| 委　員 | 伊　東　孝　哲 | ４号 | 令和４年度在校生保護者 |
| 委　員 | 樋　口　大　輔 | ５号 | 卒業生 |

## 7　教職員研修

本校教職員研修規則に定める教員研修は、専攻分野の専門性の学びについて、学生の就職先などの進路への通用性や分野動向への対応性及び職業人として求められる人間力を教員自身が調べ、学び、企業等の人材需要に応えていくために企業等との連携により実践性を踏まえて行なう。

また,職業人育成のための教育的知識・指導力を高める目的により、本校の教育活動に適した教育理論や技術の研修を行なう。 研修の取り組みにあたっては、教科運営を行なう立場から教務部署がこれらの目的を賄う成果をあげるため、教科会、主任会、職員会等に働きかけ学校全体としての活動となるよう先導するものとしている。本年度も「新型コロナウイルス感染症」感染予防の措置として、本校開催研修においては録画動画による視聴を導入し、研修自体が中止とならないよう対策を講じた。

| 目的 | 研修内容・テーマ | 研修先又は講師派遣先 | 形態 | 研修日 |
|---|---|---|---|---|
| 指導力向上 | 専門学校生の「成長」をとらえるために知ってほしいポイント | 植上　一希 氏<br>福岡大学人文学部教育・臨床心理学科　教授 | 録画動画による視聴 | 令和４年 11 月 11 日 |
| 技術力向上 | 「マーケティングセミナー」<br>本校で学生たちが培う技能を、広い企業のニーズである「マーケティング」へ実装させる方法論を探った。 | 富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社 | 研修会参加 | 令和４年 7 月 28 日 |

## ８　付帯事業

本校に設置する付帯事業については以下のとおり。

### ながのこども美術学校

小学生の自我の確立へ向かう発達期に合わせ、バランスのとれた人間性の育成のために、美術による教育「美育」の活動を下表により行った。又、この講座は、本校の教科科目「美術学習論実習」を選択した学生へ指導法を学ぶ授業としても設定されている。幼児クラスは、講師の調整ができず、本年度において廃止とした。

| クラス | 開講時間 | 開講数／月 | 入校金入校時（１家庭） | 受講料／月 | 担当講師（敬称略） | 受講者数（年間のべ）単位：人 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 小学校低学年（１～３年生） | 14:00～16:00 | ２回 | 5,000 円 | 4,800 円 | 小林　勝彦<br>鴨林　朱実<br>松本小百合<br>矢作　　恵<br>青木　忠史 | １５ |
| 小学校高学年（４～６年生） | 14:00～16:00 | ２回 | 5,000 円 | 4,800 円 | | １９ |

## ９　地域貢献

⑴学べるキャリア出張講座（長野県専修学校各種学校連合会主催）

長野県専修学校各種学校連合会が専修学校・各種学校の職業教育についての経験やノウハウ、人材を生かし、小学　生・中学生・高校生・一般社会人を対象に、キャリア教育・生涯学習の一端を担い、その向上に資することを目的として設置している。本校は当年度下表のように、協力致した。

| 月日 | 講座テーマ | 担当講師 | 出張先 |
|---|---|---|---|
| 令和４年７月 20 日（水） | 美術の基本からのデザイン体験 | 松本直樹 | 長野市立川中島中学校（３回分） |
| 令和４年 10 月 13 日(木) | 美術の基本からのデザイン体験 | 松本直樹 | 長野市立北部中学校（２回分） |
| 令和４年 11 月 28 日(月) | 美術の基本からのデザイン体験 | 松本直樹 | 長野市立東北中学校（２回分） |
| 令和４年 12 月 22 日(木) | 美術の基本からのデザイン体験 | 松本直樹 | 第一学院高等学校<br>長野キャンパス |

⑵ いきいき生涯学習

長野市専修学校各種学校協会が主催する「いきいき生涯学習」に、当年度は下表のように協力した。

| 月日 | 講座テーマ | 参加者数 | 担当講師 |
|---|---|---|---|
| 令和４年９月２日（土） | デッサン | ２名 | 大橋佳世子 |
| 令和５年２月５日（土） | デッサン | １名 | 大橋佳世子 |
| 令和５年２月５日（土） | デザイン | １名 | 相澤徳行 |

## １０　広報・学生募集活動

入学促進を含む広報活動全般と、企画事業推進

〇制作活動　　学校案内、募集要項、各種 DM、広報物、広告物の制作

〇調査活動　　新入生分析、入学対象者分析、募集状況分析、高等学校進路状況分析のための調査

〇渉外活動　　高等学校等教育機関・企業等連携機関への訪問活動などを通じた関係強化を図る

（高等学校等年間訪問実績）

| 月　日 | 訪問目的（進路指導室、事務室） |
|---|---|
| 4 月下旬～5 月上旬 | 新年度挨拶、AO 入試の告知、指定校推薦入試の依頼 |
| 7 月上旬～7 月中旬 | AO 入試の告知（再度）・エントリー状況の報告、進路状況の把握 |
| 9 月下旬 | AO 入試合格者の御礼、進路状況の把握 |
| 11 月上旬～12 月中旬 | 指定校推薦・自己推薦入試合格者のお礼、進路状況の把握 |
| 1 月下旬～2 月中旬 | 新年ご挨拶、一般入試合格者のお礼、美専展の告知 |
| 3 月下旬～次年度 | AO～一般入試合格者のお礼 |

〇資料送付「学校案内一式、オープンキャンパス DM（開催毎）」

| 対　象 | 時　期 |
|---|---|
| 高等学校・予備校 | 訪問活動に先立ち、都度送付（訪問活動でフォローアップ） |
| 資料請求者 | 請求のあった時点で、都度送付 |
| 企業・団体 | 当年度学校案内が完成次第、一斉送付。学校案内のみ |

「美専展 DM」は、上記対象に加え同窓会（卒業生）等に拡大して送付

〇進学支援業者による進学説明会への参加

高等学校内やイベント会場で開催される進学説明会は、高校生に直接アプローチできる限られた機会であることから、機会を逃すことなく本校のクリエイティブの学びを紹介しながら、来校促進を図った。

〇オープンキャンパス「自由見学会」の企画・運営

新たなオープンキャンパス開催の在り方としての「自由見学会」を、展示内容や会場のしつらえ等をさらにブラッシュアップし、来場者へ安心感・満足感を提供した。

〇ホームページ　　本校情報発信の根幹

〇ニュースレター配信　　インターナル広報を内外に発信

〇SNS、動画配信　　多様な情報発信を行い、年代別の閲覧選択肢を広げる

（Facebook、Twitter、Instagram、YouTube、LINE）

〇サテライトキャンパスの運営

街とつながる広報拠点である、サテライトキャンパスの運営を企画。社学連携活動の常設展示、卒業生展や講師展、企業展などのギャラリー企画、授業の一環としての学生制作活動、ながのこども美術学校のクラス別開催、などを行った。

## １１　今後の課題

少子化による高卒者の減少、就学者の性質の多様化、また修学後の学生を取り巻く社会環境の変化が続いている。こうした状況に立ち向かうためには、本校のアイデンティティをより確かなものにしていくことが根本課題である。社会形成に必要なクリエイティブの学びの提供を、その多様化方針の元に実直に高質化を図りながら更新していくことが本校にふさわしい事業展開であると考える。

修学の多様化の課題に対しては、本科課程においては、現行４学科と令和５年度より設置予定の「ビジュアルアート科３年制」を加えた合計５学科と７テクニカルラインを軌道に乗せるべくその運行に努めなければならない。リカレント教育の取り組みでは、文科省の「キャリア形成促進プログラム」制度の認定を受け、専門実践教育給付（厚生労働省政策）制度の対象となったコースに、さらに１コースを設けたが、同様に認定と教育給付制度の適用を受けるべく改善を図りながら継続する。また、社会に向け創造性教育の必要性そのものを訴えていくために、専門課程の教育活動の枠を超え、クリエイティブプロジェクトなどの企画を推進していく。中でも、令和５年度においての長野市との包括連携締結を機に、これまでの社学連携調整窓口の「地域クリエイティブ実践研究室」を「地域連携研究センター『ながのCreativeHUB』」とし、業務方法を精査し、適合性を高める。

財政面では、なんといっても高校生の進学による主たる収入の確保が課題。県内外の専門学校や他の教育機関との競合対策を図る必要があり、データの活用をしながら戦術を模索、方策を試行していく。ただ、投資の意味で支出を膨らませてきた近年と比べて、これを控え、採算性を重視する。

# Ⅲ　財務の概要

## １　財務概要の経年比較

経常収支差額がマイナスとなり、前年度より減額となった。

| 年度 | 正味財産額（円） |
|---|---|
| 平成 30 年度 | 111,777,751 |
| 令和元年度 | 100,979,766 |
| 令和２年度 | 91,781,870 |
| 令和３年度 | 94,205,949 |
| 令和４年度 | 80,959,394 |

## ２　当該年度の決算の概要

令和４年度の決算は、経常収支差額が大幅なマイナスに転じた。これは、収入の減少及び支出の増加が原因である。予算に対しての教育活動収入の達成率は 92.23%となっている。

長期的には予算規模の拡大方針を執っており、課程の多様化や修学支援、学生募集方策、また広報活動や課外の企画（クリエイティブプロジェクト）に施設及び人員の補強も含め積極的に取り組んできた。当年度の支出超過はそうしたいわば投資的な要因によるものであり、学生数も前年度 95 名から 89 名へとの減少が不採算に拍車をかけた。

次年度においては、抜本的な改革と予算遵守の両面が必須であることを重く受け止める。次年度に設置するビジュアルアート科３年制学科への入学者が既に決定していること等から、今後収入増加の展望はある。又、近年ビジュアルアート科への入学者の増加を受け、令和６年度においては当該学科の定員を改訂し、学生数の増加を図っていく。

## ３　主な財務比率

事業活動収支計算書において、

教育活動収支収入の内訳は、学生生徒納付金収入は全体の 90.1%、補助金が 8.9%となる。

教育活動収支支出の内訳は、人件費が全体の 55.4%、教育研究費が 9.3%、管理経費が.43.2%となる。

教育活動外収支の内訳は、収入では受取利息が 100%、支出では借入利息が 100%となる。

## ４　主な施設設備の整備状況

引き続き環境の維持管理が主であった。経年による故障での大型出力機の購入に止めた。

建物付属設備及び構築物に予算額が計上されていたが、今期の支出は控えた。